



## 2016年度決算説明資料

2017年5月19日  
SOMPOホールディングス株式会社



- ・SOMPOホールディングスのIR担当、黒田でございます。  
本日は、弊社電話会議にご参加いただき、ありがとうございます。
- ・先ほど開示しました16年度決算および17年度通期業績予想につきまして、ご説明させていただきます。
- ・弊社ホームページにも、プレゼン資料およびエクセルファイルでデータ集を掲載しておりますので、ご確認頂ければと思います。
- ・それでは2ページをご覧ください。

# 目次

業績ハイライト(2016年度)	2	<b>3. 国内生保事業</b>	
<b>1. 業績動向</b>		業績概況(ひまわり生命)	27
2016年度決算概況(連結)	4	当期純利益	28
決算のポイント① 保険引受利益(損保ジャパン日本興亜)	5	修正利益・修正純資産	29
決算のポイント② 連結経常利益	6	(参考)MCEV	30
決算のポイント③ 連結純利益	7	<b>4. 介護・ヘルスケア事業等</b>	
2017年度通期業績予想(連結)	8	業績概況(介護・ヘルスケア事業等)	32
2017年度通期業績予想のポイント	9	(参考)介護事業の入居者数および入居率	33
(参考)通期業績予想(連結経常利益)のブレイクダウン	10	<b>5. 海外保険事業</b>	
(参考)過去の業績進捗状況	11	業績概況(海外保険事業)	35
(参考)経営数値目標等	12	地域別業績	36
<b>2. 国内損保事業</b>		(参考)グループ会社別業績	37
2016年度決算概況(損保ジャパン日本興亜)	14	(参考)SI(エンデュランス)業績概況	38
正味収入保険料	15	<b>6. ERM・資産運用</b>	
損害率(リトン・ペイド)	16	財務健全性:ESR(99.5%VaR)	40
損害率(アード・インカード)	17	(参考)ESR(99.95%VaR)	41
事業費率	18	(参考)実質自己資本・リスク量(99.5%VaR)のブレイクダウン	42
コンバインド・レシオ	19	資産ポートフォリオ(グループベース)	43
資産運用損益	20	資産ポートフォリオ(損保ジャパン日本興亜)	44
(参考)資産運用粗利益の内訳	21	資産ポートフォリオ(ひまわり生命)	45
(参考)2017年度通期業績予想(損保ジャパン日本興亜)	22		
(参考)通期業績予想の前提(損保ジャパン日本興亜)	23		
(参考)自動車保険関連の指標	24		
(参考)国内自然災害	25		

◆ 5月8日に開示した2016年度通期業績予想(連結)修正のお知らせのとおり、  
連結経常利益は+248億円増益して2,417億円、連結純利益は+68億円増益の1,664億円

- 損保ジャパン日本興亜は、損害率改善を背景にコンバインド・レシオ(除く自賠償・家計地震)が1.0ポイント低下、保険引受利益は+341億円増益の1,124億円に達し、計画を上回る政策株式削減(時価ベース:1,042億円)などにより資産運用粗利益も+238億円増益の1,323億円
- ひまわり生命では、先行投資(47億円)の影響などがあつたものの当期純利益は83億円を確保  
※修正利益は、期初計画(230億円)を上回る291億円
- 介護事業は、内部管理態勢強化の進展とともに、その効果などから入居者数は増加トレンドへ反転  
※入居率は、対前年+2.8ポイント改善の83.7%※1
- 海外保険事業のボトムラインは、期初計画(150億円)を上回る199億円
- 4期連続増配(含17年度配当予想)および562億円の自己株式取得を決定  
※総還元性向50%、総還元利回りは5.7%※2



※1 SOMPOケアメッセージとSOMPOケアネクストの合算  
※2 2017年3月末株価で計算

- ・最初に2016年度決算のポイントです。
- ・既に5月8日に業績予想の上方修正を開示したとおりの内容となっております。  
連結経常利益は、248億円増益の2,417億円、  
親会社株主に帰属する当期純利益は、68億円増益の1,664億円となり、  
過去最高益となりました。
- ・損保ジャパン日本興亜では、保険引受利益、資産運用粗利益とも増益となり、  
ひまわり生命も、当初の業績予想に織り込んだ当期純利益を上回りました。  
海外につきましても、トルコやアメリカを中心に計画を上回り、  
全般に好調な決算となりました。
- ・本日、併せて株主還元についても開示しておりますので、内容を補足いたします。  
16年度期末配当を1株あたり10円増配、さらに、17年度の予想配当を  
1株あたり20円増配し、4期連続増配を見込んでおります。  
また、自己株式取得は、過去最大の562億円で枠を設定し、  
結果として総還元性向は50%となっております。
- ・4ページをご覧ください。

## 1. 業績動向

2. 国内損保事業

---

3. 国内生保事業

---

4. 介護・ヘルスケア事業等

---

5. 海外保険事業

---

6. ERM・資産運用

## 2016年度決算概況(連結)



- ◆ 国内損保事業の収支改善により、連結経常利益は+248億円増益の2,417億円、  
連結純利益は+68億円増益の1,664億円



(単位:億円)	2015年度	2016年度	増減
連結経常収益	32,561	34,195	+1,633(+5.0%)
正味収入保険料	25,521	25,503	△18(△0.1%)
生命保険料	2,976	3,238	+261(+8.8%)
連結経常利益	2,168	2,417	+248
損保ジャパン日本興亜	1,780	2,304	+523
ひまわり生命	182	129	△53
海外グループ会社	237	227	△10
その他・連結調整等※1	△32	△244	△211
連結純利益※2	1,595	1,664	+68
損保ジャパン日本興亜	1,262	1,644	+381
ひまわり生命	116	83	△32
海外グループ会社	205	195	△9
その他・連結調整等※1	11	△258	△270
(参考)修正利益(事業別)	1,643	1,832	+189
国内損保事業	1,119	1,349	+229
国内生保事業	304	291	△12
介護・ヘルスクエア事業等	15	△7	△22
海外保険事業	204	199	△4

※1 SOMPOホールディングスの設立にあたり、企業結合の会計処理として「パーチェス法」を適用している。

HD連結では、旧日本興亜損保等の資産・負債を経営統合時の時価で取得し、これを簿価としている(損保ジャパン日本興亜等の単体上の認識簿価とHD連結上の認識簿価が相違)。したがって、損保ジャパン日本興亜の売却損益等を修正する必要がある、この修正を上記「連結調整」に含めている。

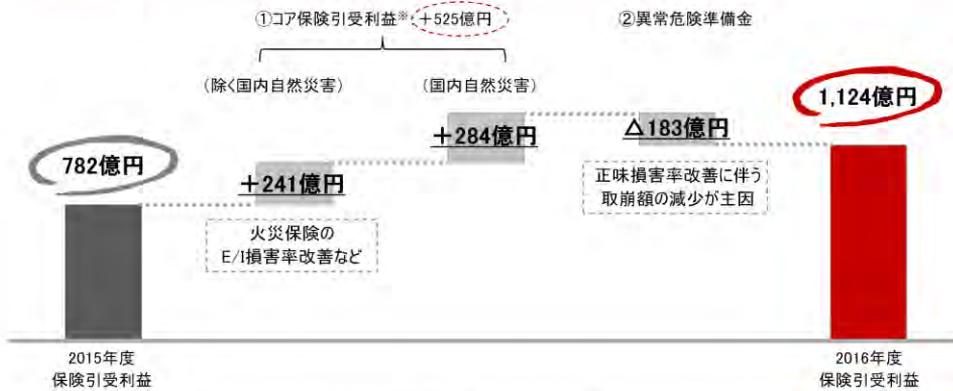
※2 連結純利益は親会社株主に帰属する当期純利益を指す(以下同様)

- ・連結決算の概況数値はこちらでご確認いただければと思います。
- ・先ほど申し上げたとおり、損保ジャパン日本興亜の収支改善を主因に、  
連結経常利益および連結純利益とも増益です。  
主な要因は、次のページ以降でご説明します。
- ・5ページをご覧ください。

## 決算のポイント① 保険引受利益(損保ジャパン日本興亜)

◆ コア保険引受利益の改善を主因に、保険引受利益は+341億円増益の1,124億円

### 保険引受利益(損保ジャパン日本興亜)の増減要因



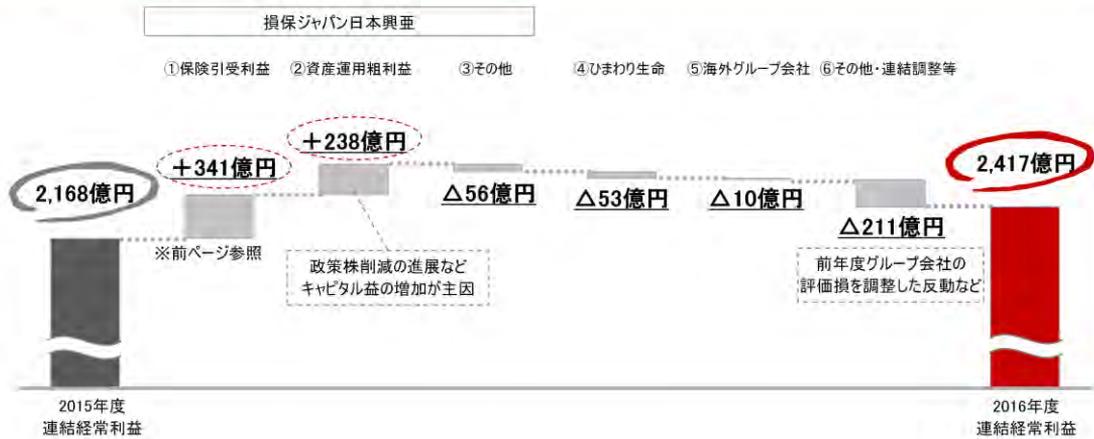
	①コア保険引受利益		②異常危険準備金	保険引受利益
	(除く国内自然災害)	(国内自然災害)		
2015年度実績	1,600億円	△842億円	25億円	782億円
2016年度実績	1,841億円	△558億円	△158億円	1,124億円

※ コア保険引受利益は、保険引受利益から異常危険準備金に係る影響を除いたもの

- ・保険引受利益の状況です。
- ・国内自然災害の発生が減少したことなどにより、火災保険の保険引受利益が改善したことを主因として、保険引受利益は、341億円増益の1,124億円となりました。
- ・6ページをご覧ください。

◆ 保険引受利益、資産運用粗利益とも堅調に推移し、連結経常利益は+248億円増益の2,417億円

### 連結経常利益の増減要因



	①保険引受利益	②資産運用粗利益	③その他	④ひまわり生命	⑤海外グループ会社	⑥その他・連結調整等	連結経常利益
2015年度実績	782億円	1,085億円	△87億円	182億円	237億円	△32億円	2,168億円
2016年度実績	1,124億円	1,323億円	△143億円	129億円	227億円	△244億円	2,417億円

- ・連結経常利益です。
- ・保険引受利益の改善に加え、計画を上回る政策株式の削減や、良好な金融市況を背景とした資産運用オペレーションの結果、利配収入が増加したことなどにより、連結経常利益は、248億円増益の2,417億円となりました。
- ・連結純利益の推移については、7ページに掲載したとおりです。
- ・8ページをご覧ください。

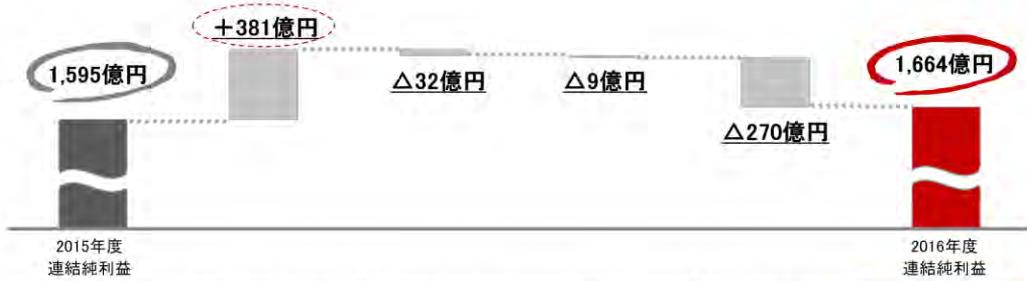
## 決算のポイント③ 連結純利益



◆ 連結純利益は国内損保事業の利益拡大を背景に+68億円増益の1,664億円

### 連結純利益の増減要因

①損保ジャパン日本興亜    ②ひまわり生命    ③海外グループ会社    ④その他・連結調整等



	①損保ジャパン 日本興亜	②ひまわり生命	③海外 グループ会社	④その他・ 連結調整等	連結純利益
2015年度実績	1,262億円	116億円	205億円	11億円	1,595億円
2016年度実績	1,644億円	83億円	195億円	△258億円	1,664億円

## 2017年度通期業績予想(連結)



◆ 連結経常利益は+172億円増益の2,590億円、連結純利益は+165億円増益の1,830億円を見込む

(単位:億円)	2016年度 (実績)	2017年度 (予想)	増減
正味収入保険料	25,503	29,080	+3,576(+14.0%)
生命保険料	3,238	3,390	+151(+4.7%)
連結経常利益	2,417	2,590	+172
損保ジャパン日本興亜	2,304	2,270	△34
ひまわり生命	129	100	△29
介護事業(SOMPOケアメッセージ・ネクスト)	△12	29	+41
海外グループ会社	227	594	+367
その他・連結調整等	△231	△403	△172
連結純利益	1,664	1,830	+165
損保ジャパン日本興亜	1,644	1,570	△74
ひまわり生命	83	60	△23
介護事業(SOMPOケアメッセージ・ネクスト)	△29	20	+49
海外グループ会社	195	505	+310
その他・連結調整等	△229	△325	△96
(参考)修正利益(事業別)	1,832	2,050	+217
国内損保事業	1,349	1,149	△200
国内生保事業	291	280	△11
介護・ヘルスケア事業等	△7	34	+41
海外保険事業	199	584	+384

8

- ・2017年度通期業績予想の概況です。
- ・始まった期も増収・増益を見込んでおります。  
ご覧のとおり、増益の主因は、海外グループ会社での利益拡大であり、これは、エンデュランスの利益貢献によるものです。  
グループ全体の連結経常利益は、172億円増益して2,590億円、連結純利益は、165億円増益して1,830億円を見込みます。  
なお、介護のグループ会社も、49億円増益して、当期純利益20億円と黒字化の想定です。
- ・9ページをご覧ください。

## 2017年度通期業績予想のポイント



- ◆ Sompo International(エンデュランス)<sup>※</sup>の利益貢献を主因に増収・増益へ
- ◆ 連結経常利益は+172億円増益して2,590億円、連結純利益は+165億円増益の1,830億円を見込む
- ◆ 株主還元のための原資となる修正連結利益は+217億円増益して2,050億円へ

**国内損保事業**  
(損保ジャパン日本興亜)

- 正味収入保険料は、自動車保険や新種保険中心に拡大(全種目で+398億円の増収)
- コンバインド・レシオ(除く自賠責・家計地震)は、0.4ポイント改善の93.1%を見込む
- 政策株式の削減額は1,000億円前後(時価ベース)を計画

**国内生保事業**

- 生保ビジネスの順調な拡大を計画、連結純利益は60億円(△23億円)を見込む
- 標準利率改定(主力の医療保険などで見送り)に伴う責任準備金負担の影響が減益の主因

**介護・ヘルスケア**

- 取り組みの成果が現れ入居率は改善、当期純利益は20億円(+49億円増益)と黒字化へ
- トップライン拡大・コスト削減に資する態勢整備などの取り組みをさらに加速

**海外保険事業**

- Sompo International(エンデュランス)の利益貢献開始を主因に、修正利益は584億円と+384億円の増益を見込む

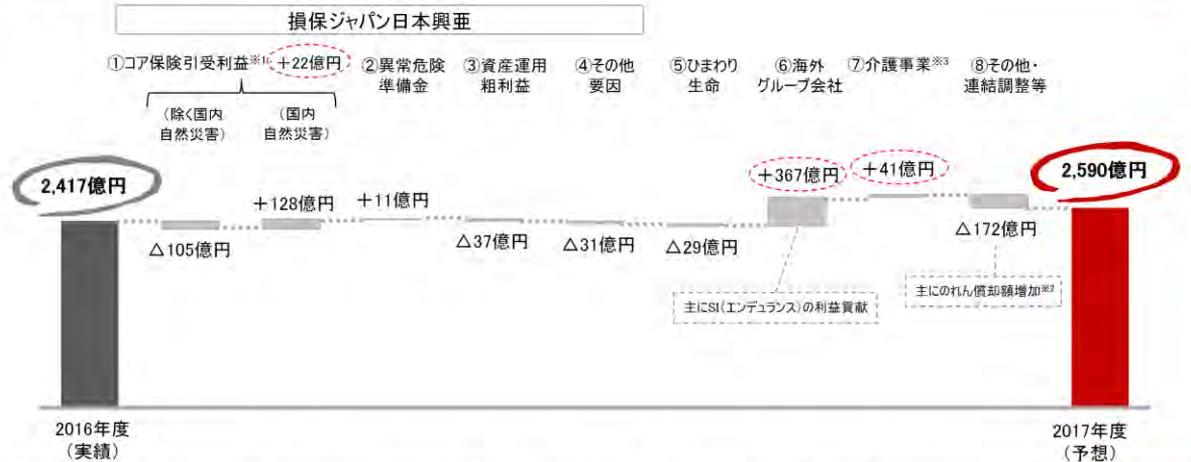


※ 2017年3月28日の買収完了日からエンデュランス社のブランド名をSompo Internationalに変更、以降SI(エンデュランス)と表記

- ・通期業績予想のポイントをお示します。
- ・数値は確認いただいたとおりですが、損保ジャパン日本興亜では、主に事業費率の貢献により、コンバインド・レシオが引き続き改善する見込みです。政策株式は、1,000億円前後の削減を織り込みました。ひまわり生命は、ビジネスが順調な一方で、ご存知のとおり、この4月に標準予定利率の改定がありましたが、医療保険など主力商品で改定を見送りましたので、責任準備金負担が約30億円増加した影響を見えています。介護分野では、引き続き内部管理態勢強化あるいはその定着化に取り組んでいますが、主要なKPIである入居率が改善トレンドとなり、17年度は黒字化を見込みました。海外では、エンデュランスがフルイヤーで利益貢献してきますが、修正利益には393億円の寄与、また、J-GAAPベースの利益、つまり連結純利益に対しては、のれん負担などを考慮し、209億円の貢献を見込んでいます。
- ・10ページをご覧ください。

## (参考)通期業績予想(連結経常利益)のブレイクダウン

## 連結経常利益の主要構成要素



	①コア保険引受利益		②異常危険準備金	③資産運用粗利益	④その他要因	⑤ひまわり生命	⑥海外グループ会社	⑦介護事業	⑧その他・連結調整等	連結経常利益
	(除く国内自然災害)	(国内自然災害)								
2016年度実績	1,841億円	△558億円	△158億円	1,323億円	△143億円	129億円	227億円	△12億円	△231億円	2,417億円
2017年度予想	1,736億円	△430億円	△147億円	1,286億円	△175億円	100億円	594億円	29億円	△403億円	2,590億円

※1 コア保険引受利益は、保険引受利益から異常危険準備金に係る影響を除いたもの

※2 SI(エンデュランス)買収に伴うのれんは1,513百万ドル、無形固定資産を合わせた正味償却対象額は2,000百万ドル程度、

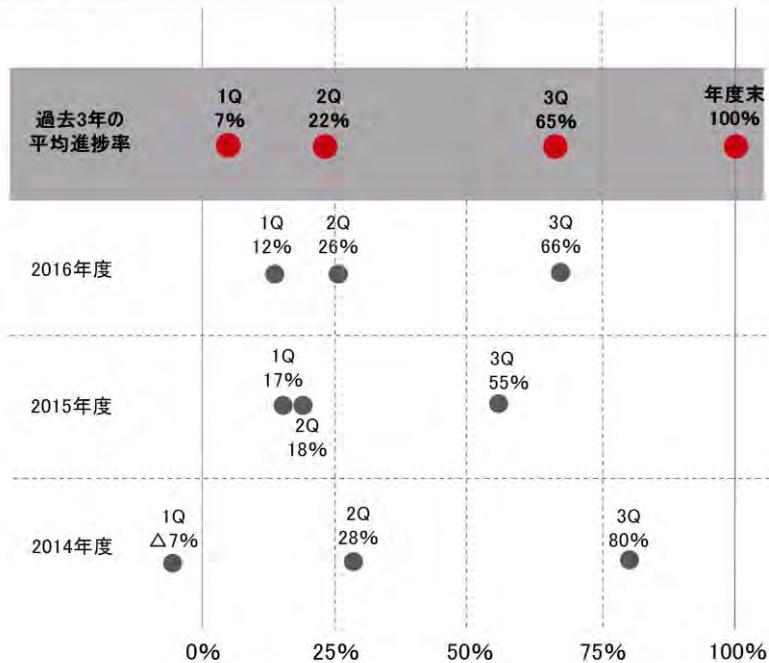
のれんは10年、無形固定資産は適切な償却期間を設定、年間償却額は合計200百万ドル程度(2017年度は164百万ドル(184億円)の見込み)

※3 SOMPOケアメッセージ・SOMPOケアネクストの合計

- ・ご参考まで、業績予想における連結経常利益のブレイクダウンをお示しします。
- ・損保ジャパン日本興亜については、保険引受利益、資産運用粗利益とも概ね横ばいの水準を想定しており、海外と介護セグメントにおける増益が寄与する構図をご確認いただけたと思います。なお、エンデュランス関連の償却負担ですが、メインののれんは10年での償却とし、他の無形固定資産については、適切な償却期間を設定しました。結果として、17年度の償却負担額を184億円で見込んでいます。
- ・11ページをご覧ください。

## (参考)過去の業績進捗状況

四半期の進捗率(連結純利益)



11

- ・昨年からお示しております、過去の四半期ごと利益進捗率です。  
昨年度もそれまでの傾向同様に、中間期まで進捗が遅い傾向がありましたので、ご参考いただければと思います。
- ・12ページをご覧ください。

## 計画数値(修正利益)

(単位: 億円)	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度計画
	(実績)	(実績)	(予想)	(16年11月修正開示)
国内損保事業※1	1,119	1,349	1,149	1,200以上
国内生保事業	304	291	280	320以上
介護・ヘルスケア事業等	15	△7	34	80以上
海外保険事業	204	199	584	600以上
<b>合計(修正連結利益)</b>	<b>1,643</b>	<b>1,832</b>	<b>2,050</b>	<b>2,200~2,300</b>
<b>修正連結ROE※2</b>	<b>6.9%</b>	<b>7.6%</b>	<b>8.1%</b>	<b>8%以上</b>
(参考) ROE(J-GAAPベース)	9.2%	9.7%	10.1%	約10%相当

## 修正連結利益の定義

## 国内損保事業

当期純利益  
 + 異常危険準備金繰入額(税引後)  
 + 価格変動準備金繰入額(税引後)  
 - 有価証券の売却損益・評価損(税引後)  
 - 特殊要因(子会社配当など)

## 国内生保事業

当期純利益  
 + 危険準備金繰入額(税引後)  
 + 価格変動準備金繰入額(税引後)  
 + 責任準備金補正(税引後)  
 + 新契約費繰延(税引後)  
 - 新契約費償却(税引後)

## 介護・ヘルスケア事業等

## 当期純利益

## 海外保険事業

当期純利益(主な非連結子会社含む)  
 なお、SI(エンデュランス)のみOperating Income※3

※1 国内損保事業は、損保ジャパン日本興亜、セゾン自動車火災、そんほ24、損保ジャパン日本興亜保険サービス、DC証券、リスクアマネジメント(2017年度以降)の合計

※2 修正連結ROE=修正連結利益÷修正連結純資産(分母は、期首・期末の平均残高)

修正連結純資産=連結純資産(除く国内生保事業純資産)+国内損保事業異常危険準備金(税引後)+国内損保事業価格変動準備金(税引後)+国内生保事業修正純資産  
 国内生保事業修正純資産=国内生保事業純資産(J-GAAP)+危険準備金(税引後)+価格変動準備金(税引後)+責任準備金補正(税引後)+未償却新契約費(税引後)

※3 SI(エンデュランス)の修正利益は一過性的変動要素を除いたOperating Income(=当期純利益-為替損益-有価証券売却・評価損益-減損損失など)で定義

- ・株主還元の原資となる修正連結利益、および修正連結ROEを参考表記しました。ともに順調に拡大したと認識しております。
- ・なお、中期経営計画の進捗など、経営戦略につきましては、来週開催予定のIRミーティングにおいて、弊社のCEO、CFOよりご説明させていただきます。
- ・それでは、各事業ごとに補足します。14ページをご覧ください。

---

1. 業績動向

2. 国内損保事業

3. 国内生保事業

---

4. 介護・ヘルスケア事業等

---

5. 海外保険事業

---

6. ERM・資産運用

## ◆ 保険引受利益、資産運用粗利益とも改善、当期純利益は+381億円増益の1,644億円

(単位:億円)	2015年度	2016年度	増減
正味収入保険料	22,184	21,656	△527 (△2.4%)
(除く自賠責・家計地震)	19,108	18,695	△413 (△2.2%)
正味損害率	63.7%	63.2%	△0.5pt
(除く自賠責・家計地震)	61.1%	59.8%	△1.3pt
E/I損害率(除く自賠責・家計地震)	61.6%	59.5%	△2.1pt
正味事業費率	31.6%	32.0%	+0.4pt
(除く自賠責・家計地震)	33.4%	33.7%	+0.3pt
コンバインド・レシオ	95.3%	95.2%	△0.1pt
(除く自賠責・家計地震)	94.5%	93.5%	△1.0pt
保険引受利益	782	1,124	+341
資産運用粗利益	1,085	1,323	+238
経常利益	1,780	2,304	+523
当期純利益	1,262	1,644	+381
(参考) 修正利益			
+) 異常危険準備金繰入額(税引後)	△17	114	+131
+) 価格変動準備金繰入額(税引後)	57	75	+18
-) 有価証券売却損益・評価損(税引後)	226	498	+272
-) 特殊要因(税引後)※	△85	△50	+35
修正利益	1,161	1,385	+223

2015年度の火災保険商品・料率改定に伴う駆け込み需要の反動などが主因

※ 特殊要因は株式先物関連損益等

14

- ・損保ジャパン日本興亜の決算概況はこちらでご確認ください。
- ・それぞれの項目について、次のページ以降でご説明いたします。
- ・15ページをご覧ください。

◆ 火災保険の前年度商品・料率改定影響の一方、主力の自動車保険や新種保険は増収継続

## 種目別正味収入保険料

(単位:億円)	2015年度	2016年度	増減	2017年度 (予想)
火災	3,306	2,853	△452 (△13.7%)	2,916 +62
海上	512	439	△72 (△14.1%)	429 △10
傷害	1,842	1,817	△24 (△1.3%)	1,860 +42
自動車	10,701	10,777	+75 (+0.7%)	10,953 +176
自賠償	3,065	2,952	△113 (△3.7%)	2,865 △86
その他	2,756	2,815	+59 (+2.2%)	3,028 +212
うち賠償責任	1,552	1,537	△15 (△1.0%)	1,620 +83
合計	22,184	21,656	△527 (△2.4%)	22,054 +398
合計(除く自賠償・家計地震)	19,108	18,695	△413 (△2.2%)	19,179 +483

(参考) 自動車保険の台数・単価・保険料  
対前年同期比(2016年4月～2017年3月)

	台数	単価	保険料
ノンフリート	△0.1%	+0.4%	+0.4%
フリート	+0.8%	△0.1%	+0.7%
合計	+0.1%	+0.3%	+0.4%

(営業成績保険料ベース)

<ノンフリート台数トレンド>

2017年1月の商品改定後、増加トレンドへ



(2016年度の主な増減要因)

- 火災：2015年10月商品改定(10年超の長期契約廃止、料率改定)による駆け込み需要の反動
- 海上：期中の円高や貿易量減少などが主因
- 自動車：商品・料率改定効果およびその他の単価アップ施策により増収
- その他：中小企業向けパッケージ商品の販売などが好調

- ・正味収入保険料ですが、火災保険での駆け込み需要の反動により、2016年度は減収となりましたが、2017年度は、自動車保険や新種保険などを中心に398億円の増収を見込んでいます。
- ・このところ、自動車保険の特にノンフリート契約で台数減が続いていましたが、今年1月の商品改定により、新車あるいは複数台所有者の割引を拡充した効果もあり、台数増加トレンドに反転しました。毎月営業速報を開示していますが、4月も好調なトレンドとなっております。
- ・16ページをご覧ください。

## 損害率(リトン・ペイド)



- ◆ 2016年度は国内自然災害の支払が減少したことなどにより1.3ポイント改善
- ◆ 2017年度も引き続き60%以下の良好な水準を維持する見込み

## 損害率(除く自賠責・家計地震)



16

・リトン・ペイド損害率です。

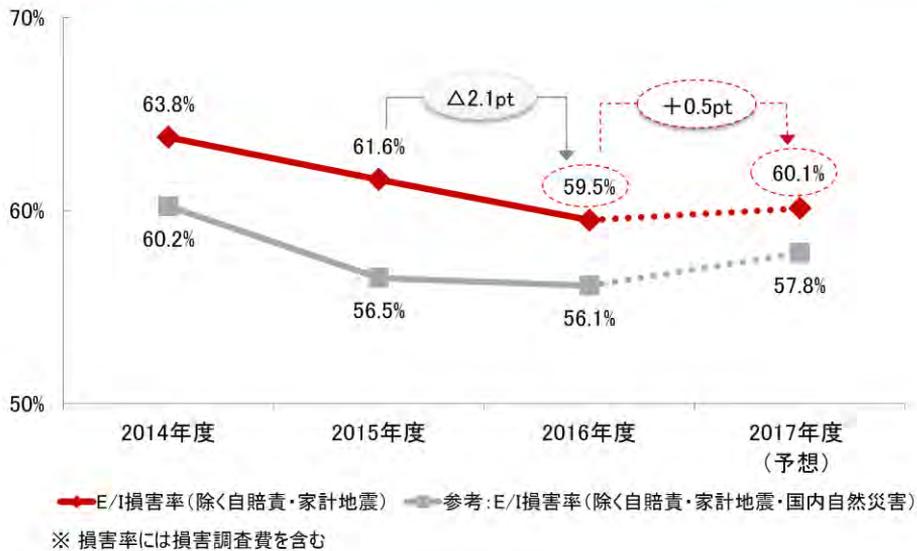
2016年度は1.3ポイント低下、2017年度は保守的に+0.1%を見込みますが、引き続き60%を下回る良好な水準で推移する見込みです。

・17ページをご覧ください。

## 損害率(アード・インカード)

- ◆ 2016年度は国内自然災害の減少もあり、火災保険を中心に2.1ポイント改善
- ◆ 2017年度も60%程度の水準での推移を見込む

### E/I損害率(除く自賠責・家計地震)



17

・アード・インカードベースの損害率です。

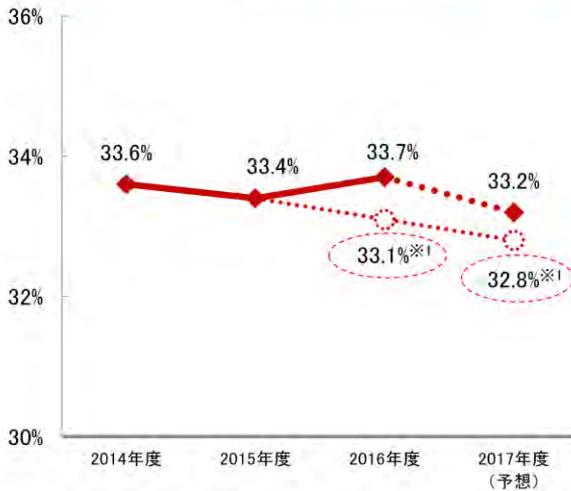
2016年度は、国内自然災害の減少などを主因に2.1ポイント改善しました。

2017年度は、主力の自動車保険で損害率想定を高めを設定しているロードアシスタンス特約の発生損害増加を一定織り込んだことなどにより、+0.5%を見込みましたが、いずれにしても60%程度の良好な水準での推移となります。

・18ページをご覧ください。

◆ 将来に向けた先行投資を計画どおり実施しつつ、既存の事業費は適切にコントロール

事業費率(除く自賠責・家計地震)の推移

社費率<sup>※2</sup>(除く自賠責・家計地震)の推移

※1 除く先行投資(先行投資実績は勘定科目全体で2016年度:147億円、2017年度(予想):100億円程度)

※2 保険引受に係る営業費及び一般管理費の正味保険料に対する比率

- ・事業費率です。
- ・将来、全体の事業費率を、2ポイント程度改善させるべく、IT中心とした先行投資を計画どおり実施しました。  
先行投資の実額は、2016年度147億円、2017年度は約100億円を見込んでいます。  
既存の人件費・物件費については、適切にコントロールできておりますので、先行投資を除いたベースでの2016年度事業費率は、0.3ポイント改善、2017年度も、同じく0.3ポイント程度改善する見込みとしています。
- ・19ページをご覧ください。

## コンバインド・レシオ

- ◆ 2016年度のコンバインド・レシオは、1.0ポイント低下し93.5%
- ◆ 2017年度は事業費の適切なコントロールなどにより、引き続き良好な推移を見込む

&lt;参考&gt;

コンバインド・レシオ(除く自賠責・家計地震)

コンバインド・レシオ(除く自賠責・家計地震・自然災害)



※ 除く先行投資



19

- ・損害率および事業費率を足したコンバインド・レシオですが、終わった期、始まった期とも改善し、93%程度を見込んでいます。
- ・20ページをご覧ください。

- ◆ 2016年度は良好な市場環境もあり増益、政策株式は年間計画(1,000億円前後)を超えて削減
- ◆ 2017年度も政策株式は1,000億円前後を着実に削減、資産運用粗利益は1,286億円を見込む

## 資産運用粗利益(損保ジャパン日本興亜単体)

(単位: 億円)	2015年度	2016年度	増減	2017年度 (予想)	増減
ネット利息及び配当金収入 ①	640	731	+90	736	+5
利息及び配当金収入※1	1,099	1,148	+49	1,134	△14
(うち海外子会社配当金)	7	9	+2	161	+152
有価証券売却損益※1 ②	605	710	+105	693	△17
(うち国内株式)	507	749	+241	669	△79
有価証券評価損※1 ③	△287	△16	+271	△139	△122
(うち国内株式)	△214	△5	+208	△139	△133
金融派生商品損益 ④	56	△162	△218	△40	+121
その他損益 ⑤	69	59	△9	35	△24
資産運用粗利益 (①~⑤計)	1,085	1,323	+238	1,286	△37

※1 内訳は次ページ参照

主に株式先物ヘッジおよび  
為替予約に伴う損益

20

・資産運用粗利益です。

・2016年度は、金融市場の環境を捉え、

主に海外もののファンド解約などの効果によって、利配収入が上ぶれました。

政策株式削減は、計画を上回る1,042億円を達成し、前期の757億円から大きく加速したこともあり、資産運用粗利益は、238億円増益の1,323億円となりました。

利配収入、売却損益、評価損益の詳細は、次のページにお示しました。

・2017年度ですが、

引き続き、政策株式削減は1,000億円前後を計画しています。

一方で、前述のファンド解約益等の抜けなどを見込むため、資産運用粗利益は、概ね前年同水準の1,286億円を見込みます。

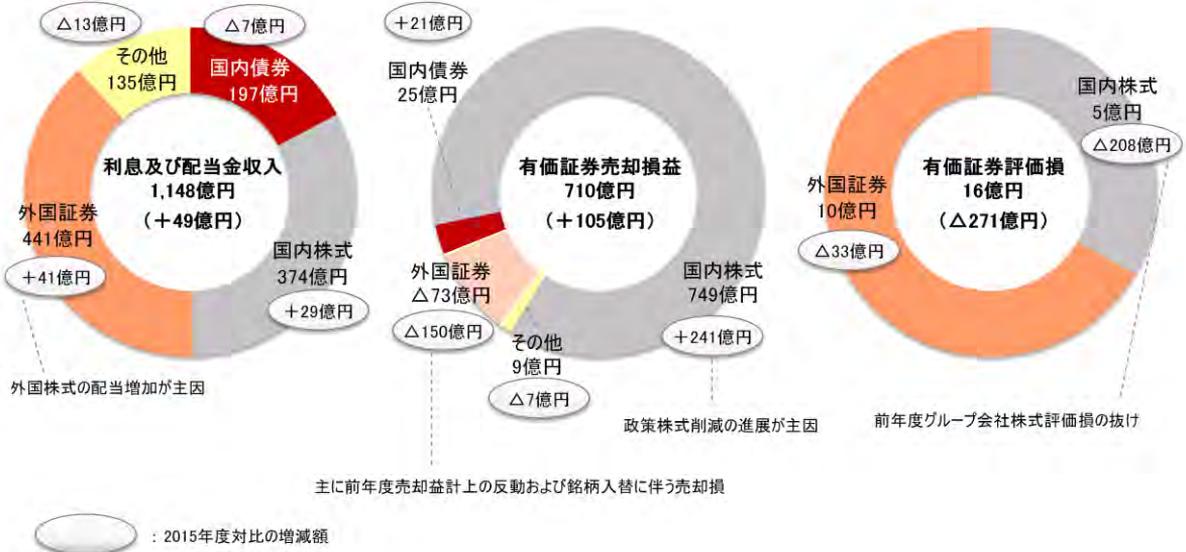
なお、今期から利益貢献するエンデュランス社からの配当として161億円を

ガイダンスに織り込んでいます。これは連結決算上は消去されるアイテムとなります。

・22ページをご覧ください。

(参考)資産運用粗利益の内訳

利息及び配当金収入・有価証券売却損益・有価証券評価損の内訳(2016年度)



## (参考)2017年度通期業績予想(損保ジャパン日本興亜)

(単位:億円)	2016年度 (実績)	2017年度 (予想)	増減
正味収入保険料	21,656	22,054	+398 (+1.8%)
(除く自賠償・家計地震)	18,695	19,179	+483 (+2.6%)
正味損害率	63.2%	63.1%	△0.1pt
(除く自賠償・家計地震)	59.8%	59.9%	+0.1pt
E/I損害率(除く自賠償・家計地震)	59.5%	60.1%	+0.5pt
正味事業費率	32.0%	31.7%	△0.2pt
(除く自賠償・家計地震)	33.7%	33.2%	△0.5pt
コンバインド・レシオ	95.2%	94.8%	△0.3pt
(除く自賠償・家計地震)	93.5%	93.1%	△0.4pt
保険引受利益	1,124	1,158	+33 (+3.0%)
資産運用粗利益	1,323	1,286	△37 (△2.8%)
経常利益	2,304	2,270	△34 (△1.5%)
当期純利益	1,644	1,570	△74 (△4.5%)
(参考) 修正利益			
+) 異常危険準備金繰入額(税引後)	114	105	△8
+) 価格変動準備金繰入額(税引後)	75	75	△0
-) 有価証券売却損益・評価損(税引後)	498	398	△100
-) 特殊要因(税引後)※	△50	159	+210
修正利益	1,385	1,193	△192 (△13.9%)

※ 特殊要因は株式先物関連損益等

- ・損保ジャパン日本興亜の業績予想の詳細は、こちらのページで  
ご確認いただければと思います。
- また、次の23ページに当該予想の前提を、  
24ページに自動車保険関係のデータを掲載していますので併せてご覧ください。
- ・25ページをご覧ください。

## (参考)通期業績予想の前提(損保ジャパン日本興亜)

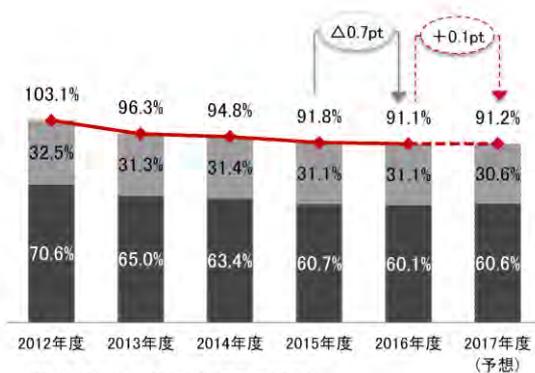
国内自然災害(当年度発生)	430億円
異常危険準備金	147億円の積み増し(ネット)
異常危険準備金繰入率	火災グループ繰入率 火災:14.0%、火災以外:5.0% 自動車グループの繰入率:3.2%
資産運用	<株価> 日経平均:18,909円 <金利> 10年物日本国債:+0.07% <為替> ドル円:112.19円、ユーロ円:119.79円 ※マーケットの前提は2017年3月末の水準を想定
利息及び配当金収入	グロス:1,134億円 ネット:736億円
有価証券キャピタル損益	有価証券売却損益:693億円 有価証券評価損:139億円
価格変動準備金	105億円の繰入れ(ネット)

(参考)自動車保険関連の指標



コンバインド・レシオの推移

■ 損害率 ■ 事業費率 ◆ コンバインド・レシオ



※ 損害率はW/Pベース(含む損調費)

事故受付件数の推移



2012年10月等級制度改定

※ 発生損害が一定額を超過した自然災害に係る件数を除く

## 国内自然災害の正味発生損害(当年度発生のみ)



※ 除く自賠責・家計地震

- ・国内自然災害の状況です。
- ・2016年度は558億円の発生損害となりました。  
通常其自然災害予算430億円との比較では、  
熊本地震の79億円、および2017年に入って山陰などで降りました雪の影響が  
通常年の雪害額と比べると、少し上ぶれていたことが要因です。
- ・2017年度其自然災害予算は、430億円で見込んでいます。
- ・27ページをご覧ください。

---

1. 業績動向

---

2. 国内損保事業

3. 国内生保事業

4. 介護・ヘルスケア事業等

---

5. 海外保険事業

---

6. ERM・資産運用

- ◆ 2016年度の当期純利益は、期初計画(65億円)を上回る83億円
- ◆ 2017年度も保険料等収入は拡大、責任準備金負担増を主因に当期純利益は60億円を見込む

## 主要業績

(単位:億円)	2015年度	2016年度	増減		2017年度 (予想)	増減	
新契約年換算保険料	403	502	+99	(+24.7%)	400	△102	(△20.4%)
保険料等収入	3,964	4,195	+230	(+5.8%)	4,393	+198	(+4.7%)
(除く一時払保険料)	3,925	4,194	+269	(+6.9%)	4,393	+198	(+4.7%)
事業費	947	1,043	+95	(+10.1%)	1,034	△9	(△0.9%)
資産運用損益(一般勘定)	422	433	+11	(+2.7%)	440	+6	(+1.6%)
基礎利益	219	165	△53	(△24.6%)	136	△28	(△17.3%)
経常利益	225	168	△56	(△25.2%)	139	△29	(△17.4%)
当期純利益	116	83	△32	(△28.4%)	60	△23	(△27.9%)

(参考)



※1 個人保険と個人年金保険の合計  
 ※2 うち保障性商品+78億円

27

・ひまわり生命の業績概況です。

保有契約は順調に拡大し、保険料等収入が増収する傾向に変わりありません。

・2016年度の当期純利益は、当初計画であった65億円を上回る83億円となりました。

前年からは減益しましたが、これは将来の成長に向けた47億円の先行投資を計画どおり実行したことによります。

・2017年度は、先ほど申し上げた標準予定利率改定に伴う責任準備金負担の影響などを見たガイダンスになっています。

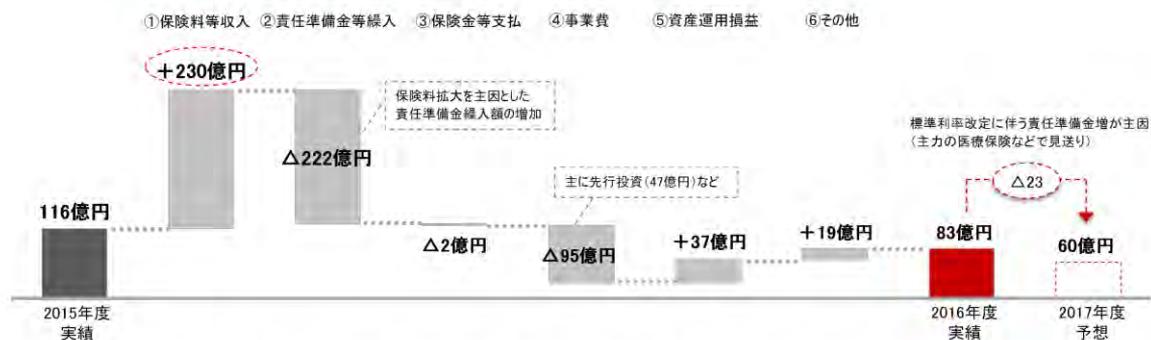
なお、準備金にかかるアイテムですので、修正利益への影響はありません。

・当期純利益の増減要因は28ページで、修正利益の状況は29ページでご確認ください。

・30ページをご覧ください。

◆ 2016年度は着実なトップライン拡大の一方、今後の成長に向けた先行投資の影響を主因に減益

当期純利益の増減要因



	①保険料等収入	②責任準備金等繰入	③保険金等支払	④事業費	⑤資産運用損益	⑥その他※	当期純利益
2015年度実績	3,964億円	△1,376億円	△1,808億円	△947億円	414億円	△129億円	116億円
2016年度実績	4,195億円	△1,599億円	△1,810億円	△1,043億円	452億円	△110億円	83億円
2017年度予想	4,393億円	△1,801億円	△1,877億円	△1,034億円	440億円	△60億円	60億円

※ その他経常費用、特別損益、契約者配当準備金繰入、法人税等の合計

## 修正利益・修正純資産

- ◆ 2016年度の修正利益は保有契約の拡大などにより、期初計画(230億円)を上回る291億円
- ◆ 2017年度は前年度の支払保険金が例年より少なかったことを加味し、280億円を見込む

当期純利益から修正利益へのコンバージョン

(参考)修正純資産

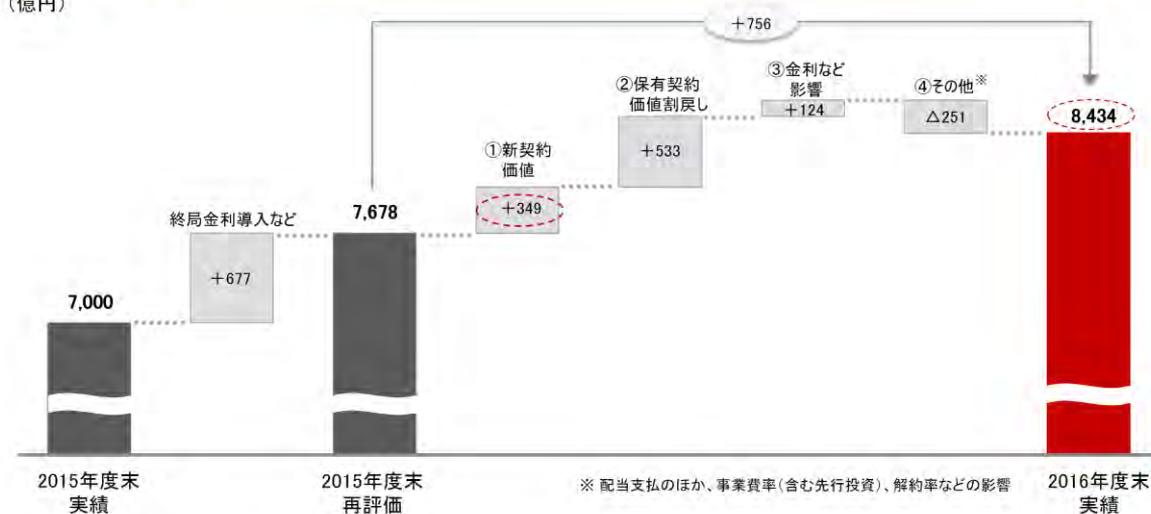


- ※1 危険準備金、価格変動準備金(税引後)
- ※2 保守的に計算している責任準備金を保険料計算に用いる基礎率により再計算(税引後)
- ※3 契約初年度に発生する募集手数料等の新契約費を10年間で償却(税引後)

◆ 2016年度末のMCEVは新契約価値拡大(+349億円)もあり、+756億円増加の8,434億円

## MCEVの増減要因

(億円)



30

- ・年度末のみ、公式に開示しております、ひまわり生命のMCEVの推移をご参考までお示しします。
- ・2016年度末のMCEVは、契約の積み上がりを背景に756億円増加し、8,434億円となりました。着実に経済価値ベースでの企業価値を高めている結果となっています。
- ・32ページをご覧ください。

---

1. 業績動向

---

2. 国内損保事業

---

3. 国内生保事業

4. 介護・ヘルスケア事業等

5. 海外保険事業

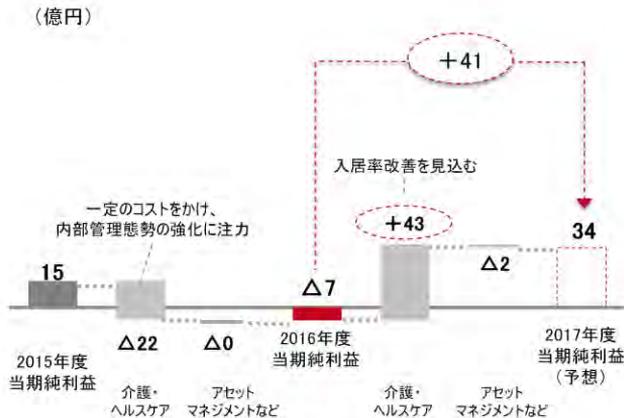
---

6. ERM・資産運用

## 業績概況(介護・ヘルスケア事業等)

◆ 介護事業の内部管理態勢および収益力を着実に強化、2017年度は黒字化へ

## 当期純利益の増減要因



## 介護事業 主要業績

(単位:億円)

	2016年度	増減	2017年度(予想)
売上高	1,108	△34	1,198
(SOMPOケアメッセージ)	734	△53	793
(SOMPOケアネクスト)	374	+19	405
入居率 (そんぼの家)	87.4%	+1.3pt	91.4%
(そんぼの家S)	83.6%	△0.1pt	89.0%
(ラヴィーレ)	80.1%	+6.7pt	84.0%

※ そんぼの家はSOMPOケアメッセージの介護付有料老人ホーム、  
そんぼの家SIは同社のサービス付き高齢者向け住宅、  
ラヴィーレはSOMPOケアネクストの介護施設を示すブランド名

- ・介護・ヘルスケア事業の業績概況です。
- ・介護事業では、計画どおり一定のコストをかけつつ、内部管理態勢を強化、加えて、営業に時間もかけられるようになったこともあり、入居率が改善するなど、収益力も強化されつつあります。
- ・2016年度は、アセットマネジメントなど戦略事業を含めたセクター全体で7億円の赤字となりましたが、介護事業の入居者数増加トレンドを織り込み、2017年度は、このセクター全体の利益は、41億円増益して、34億円と黒字化を達成する見込みです。
- ・なお、入居者数・入居率のトレンドを33ページに参考掲載しました。
- ・35ページをご覧ください。

## (参考)介護事業の入居者数および入居率

### 入居者数の推移

(単位:人)

● SOMPOケアメッセージ    ■ SOMPOケアネクスト



### 入居率の推移

● SOMPOケアメッセージ    ■ SOMPOケアネクスト



---

1. 業績動向

---

2. 国内損保事業

---

3. 国内生保事業

---

4. 介護・ヘルスケア事業等

5. 海外保険事業

6. ERM・資産運用

- ◆ 2016年度は収入保険料が順調に拡大、当期純利益は+6億円増益の199億円
- ◆ 2017年度はSI(エンデュランス)の連結貢献を背景に大幅な増収・増益を見込む

収入保険料※1



当期純利益※1



※1 収入保険料は、持分割合を反映した数値を記載しており、連結財務諸表とは基準が異なる。当期純利益についても、持分割合の反映などの調整を行っている。

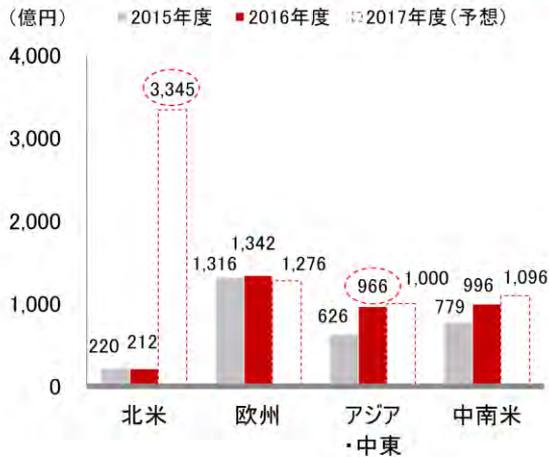
また、2016年度から非連結子会社であるSompoインドネシア、Sompoタイランド、PGAソボ(フィリピン)、ユナイテッドインシュアランス(ベトナム)、Sompoメキシコの数値を合算している(以下同様)。

※2 SI(エンデュランス)の利益はOperating Income(US-GAAP、詳細は12ページ参照)の予想値。2017年度は買収時の一時コスト約62百万ドル(約70億円)を特殊要因として修正利益から控除。

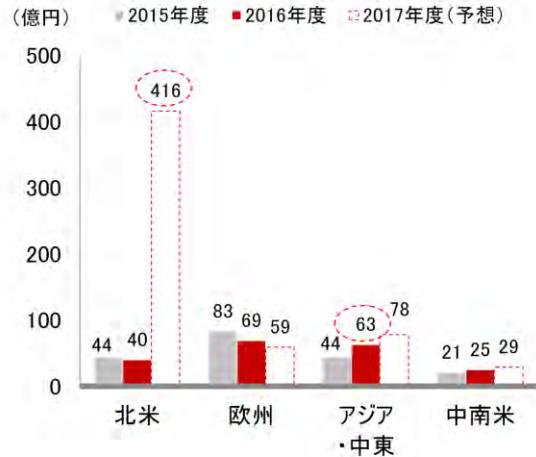
- ・海外保険事業の業績概況です。
- ・2016年度の収入保険料は、順調に拡大して+574億円増収、当期純利益は、+6億円増益して199億円となりました。  
もともとの予想は、当期純利益150億円でしたが、円安影響に加え、アメリカやトルコで利益が上振れたこともあり、これを約50億円上回る結果となりました。
- ・2017年度は、ご案内のとおり、エンデュランスの連結貢献により、大幅な増収・増益となります。  
同社では、保険料で約3,098億円、利益貢献393億円を見込みました。
- ・なお、エンデュランスの修正利益指標は、彼らも公表している一過性の有価証券評価損益などを控除し、より定常的な利益水準を表した「Operating Income」としました。
- ・36ページをご覧ください。

- ◆ 2016年度はトップライン、ボトムラインともにアジア・中東が成長を牽引
- ◆ 2017年度はSI(エンデュランス)の連結開始により北米が大幅拡大

収入保険料(地域別)



当期純利益(地域別)



- ・地域別の業績です。
- ・トルコのSJシゴルタが極めて好調ですが、強制自動車保険および付随した任意の自動車保険の販売が大幅に拡大しており、相まって、運用資産増加による運用益の増益も寄与しました。
- ・2017年度は、エンデュランスの連結により、北米での伸びが顕著になります。
- ・次の37ページに会社別業績をお示しし、エンデュランスについては38ページに、補足情報も掲載していますので、のちほどご確認ください。
- ・40ページをご覧ください。

## (参考)グループ会社別業績

SOMPO  
ホールディングス

(単位:億円)		収入保険料		当期純利益(修正利益)			ポイント	(参考)為替レート	
		2016年度	増減	2017年度 (予想)	2016年度	増減		2017年度 (予想)	2016年12月 (対前年増減)
北米	Sompoアメリカ	212	△8	247	40	△3	22	2016年度は労災保険中心に損害率低位、 2017年度は損害率を保守的に見込む	116.49 円/米ドル (△3.4%)
	SI(インデュランス)	—	—	3,098	—	—	393	2017年度から連結開始、 393億円の修正利益貢献を見込む	—
欧州	SJNKヨーロッパ	9	△35	10	9	+3	0	2016年度は出再カバーを拡充、 支払備金取崩による一時益もあり増益	143.00 円/ポンド (△20.0%)
	Sompoキャノピアス	1,332	+61	1,265	59	△16	59	2016年度はソフト化の影響を受けたものの、 計画対比では順調	116.49 円/米ドル (△3.4%)
アジア・ 中東	SJシゴルタ (トルコ)	587	+284	486	44	+28	62	2016年度は強制自動車保険などで増収、 2017年度は増収効果を楽しみ利益拡大	33.11 円/リラ (△20.2%)
	Sompo シンガポール <sup>※1</sup>	64	△20	76	10	+0	5	2016年度は損害率が良好に推移	80.63 円/SGドル (△5.6%)
	ベルジャヤソンボ <sup>※1</sup> (マレーシア)	109	+2	131	10	△6	6	2015年度の株式売却益の反動はあるが、 損害率は良好に推移	25.98 円/リンギット (△7.6%)
	SJNK中国 NK中国	54	△11	56	△11	△5	△1	2016年度は大口事故の影響あり	16.76 円/人民元 (△8.7%)
	Sompo香港	34	△6	36	4	+0	4	損害率は改善傾向	15.02 円/香港ドル (△3.5%)
	ユニバーサルソンボ (インド)	29	+4	45	2	+0	2	概ね計画どおり	1.73 円/ルピー (+1.8%)
中南米	Sompoセグロス (ブラジル)	992	+213	1,091	22	+0	27	損害率は改善トレンド、トップラインも徐々に 拡大していく見込み	35.78 円/リアル (+14.7%)
上記以外(非連結) <sup>※2</sup>		90	+90	173	6	+6	2	—	—
合計		3,517	+574	6,719	199	+6	584	—	—

※1 2017年度はCIMB銀行窓販初期コストの影響あり

※2 Sompoインドネシア、Sompoタイランド、PGAソンボ(フィリピン)、ユニテッドインシュアランス(ベトナム)、Sompoメキシコの合計

## (参考)SI(インデュランス)業績概況

### 修正利益(Operating Income)の増減要因(2017年度通期業績予想)



### グロス保険料の推移



### コンバインド・レシオの推移



※ 2017年度(予想)は買収時の一時コスト約62百万ドルを特殊要因として事業費から控除して表示(なお、控除しなかった場合のOperating Incomeは288百万ドル、コンバインド・レシオは92.0%)

---

1. 業績動向

---

2. 国内損保事業

---

3. 国内生保事業

---

4. 介護・ヘルスケア事業等

---

5. 海外保険事業

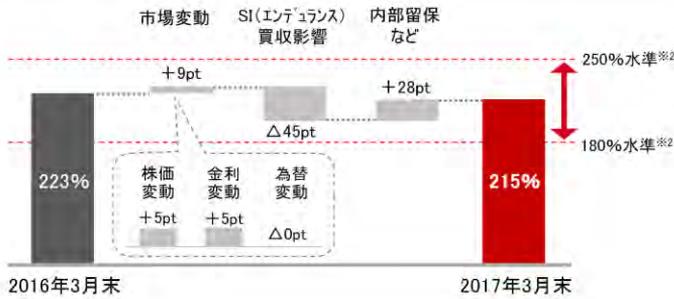
---

6. ERM・資産運用

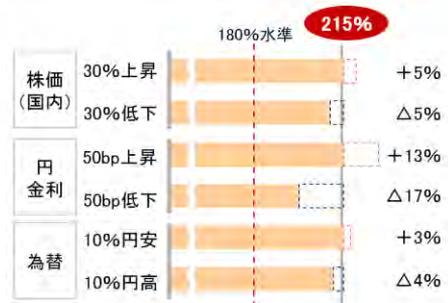
## 財務健全性: ESR(99.5%VaR)



- ◆ グローバルでの比較可能性を高めるため、ソルベンシー II に準拠したESR(99.5%VaR)を本格開示
- ◆ SI(インデュランス)買収後も、財務健全性に問題なし

ESR(99.5%VaR)<sup>※1</sup>の推移

## ESR(99.5%VaR)の感応度分析



※1 ソルベンシー II などの国際的な資本規制に準拠した算出方法

※2 ESR(99.5%VaR)におけるターゲット資本水準は、概ね180%~250%

250%水準: 資本効率(ROE)の観点を踏まえた水準

180%水準: ストレステストの結果などを踏まえ、財務健全性を安定的に確保可能な水準

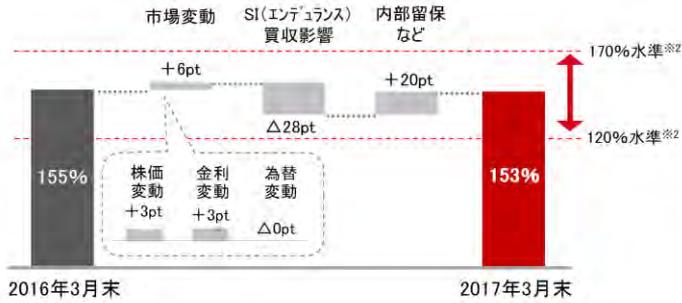
(参考) 市場環境

	2016年3月末	2017年3月末
国内株価(日経平均株価)	16,758円	18,909円 (+12.8%)
国内金利(30年物国債利回り)	0.56%	0.85% (+29bp)
為替(米ドル円レート)	112.68円	112.19円 (Δ0.4%)
為替(ユーロ円レート)	127.70円	119.79円 (Δ6.2%)

- ・今回から、グローバルでの比較可能性を高めるために、ソルベンシー II に準拠したESRを本格開示します。リスクを99.5%VaRで測定したものになります。この基準での、ターゲットレンジは概ね180~250%としておりますが、直近のESRは215%であり、まったく問題ない水準です。また、感応度もお示しましたが、一定コントロールできている認識です。
- ・なお、41ページには従来の99.95%VaRによるESRを、42ページに実質自己資本とリスク量のブレークダウンを掲載しましたので、後ほどご確認ください。
- ・43ページをご覧ください。

(参考)ESR(99.95%VaR)

ESR(99.95%VaR)<sup>※1</sup>の推移



ESR(99.95%VaR)の感応度分析



※1 ソルベンシー II などの国際的な資本規制に準拠した算出方法

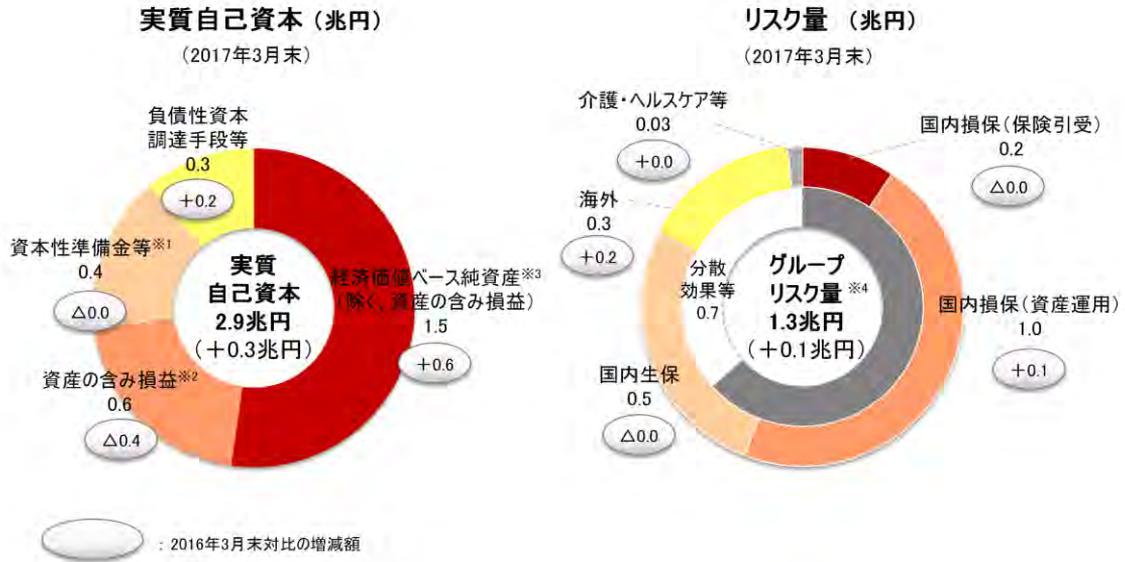
※2 ESR(99.95%VaR)におけるターゲット資本水準は、概ね120%~170%

170%水準:資本効率(ROE)の観点を踏まえた水準

120%水準:ストレステストの結果などを踏まえ、

財務健全性を安定的に確保可能な水準

(参考)実質自己資本・リスク量(99.5%VaR)のブレイクダウン



※1 価格変動準備金、異常危険準備金など(税引後)

※2 時価評価しない資産(責任準備金対応債券等)を含めた有価証券等の含み損益

※3 単体BS純資産合計額に生損保の保有契約価値などを加算

※4 リスク量は保有期間1年、99.5%VaRで計測

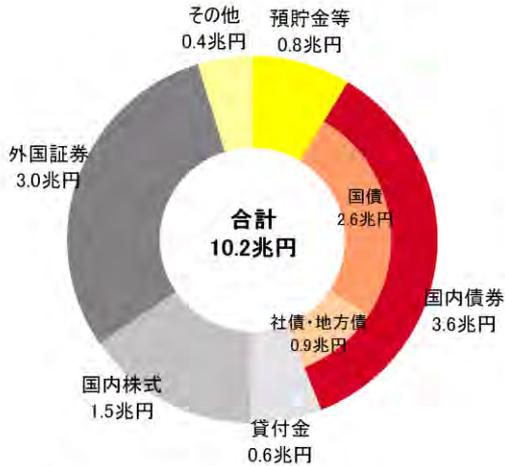
事業毎のリスク量: 事業間のリスク分散効果控除前、税引前ベース

グループ全体のリスク: 事業毎のリスク量合計から、分散効果や税効果を控除

## 資産ポートフォリオ(グループベース)

- ◆ 負債特性、流動性に留意したALMを徹底
- ◆ 国内株式は着実に削減(年間1,000億円前後)する方針に変更なし

### 資産運用額(2017年3月末 グループ連結ベース)



※ “その他”は土地・建物、非連結子会社株式など

### グループ会社別資産運用額(億円)

	資産運用額	構成比
損保ジャパン日本興亜	58,747	57.4%
ひまわり生命	25,302	24.7%
海外グループ会社	17,013	16.6%
(うちSI(インデュランス))	(10,471)	(10.2%)
セゾン自動車火災	437	0.4%
そんぽ24	223	0.2%
国内その他	609	0.6%
<b>合計</b>	<b>102,333</b>	<b>100.0%</b>

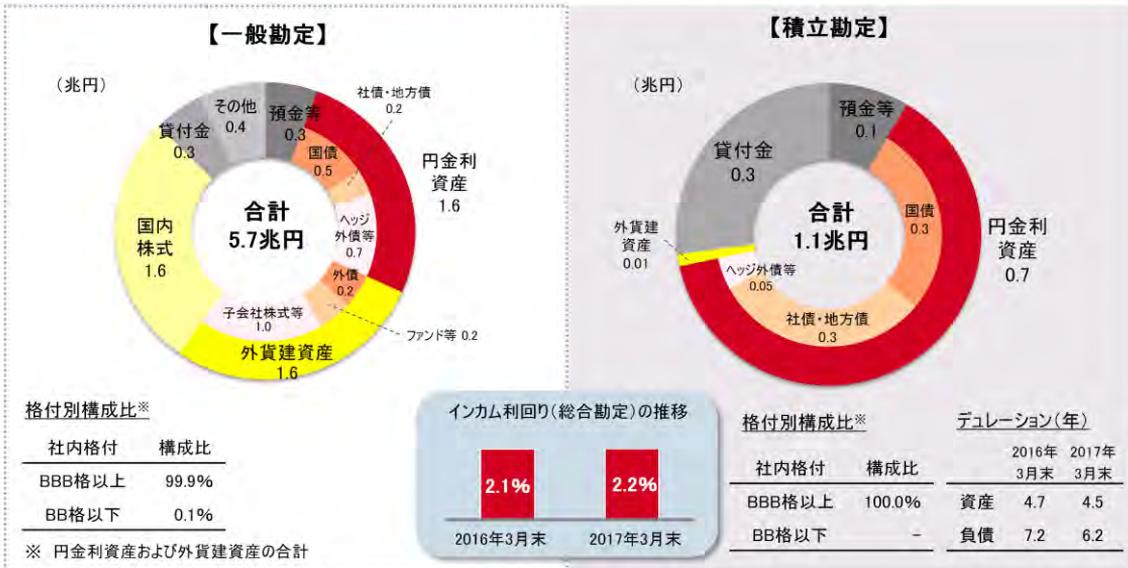
43

- ・最後にグループベースの資産ポートフォリオをお示します。  
特筆するような大きな動きはありません。  
運用方針も政策株式の継続削減、国内低金利環境を背景に、  
リスク増加に十分留意しながら、外国債券などでリターンを確保していく  
という方向性に変更はありません。
- ・44ページに損保ジャパン日本興亜、  
45ページにひまわり生命のポートフォリオを掲載しております。
- ・以上で説明を終了させていただきます。

## 資産ポートフォリオ(損保ジャパン日本興亜)

- ◆ 一般勘定は分散投資、積立勘定はALMを基本とするポートフォリオマネジメントを継続
- ◆ 国内の低金利環境なども踏まえ、リスク・リターンのバランスを考慮しつつ運用手法を多様化

資産運用額(2017年3月末 損保ジャパン日本興亜単体ベース)



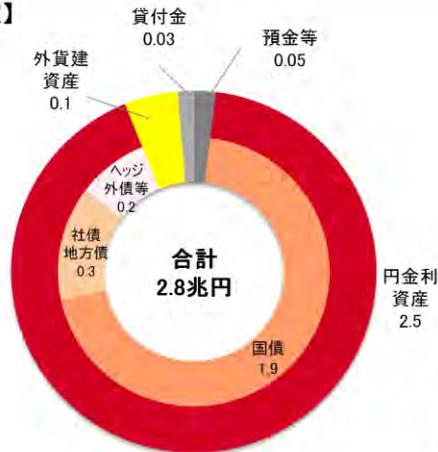
## 資産ポートフォリオ(ひまわり生命)

- ◆ 円金利資産を中心としたALM重視のポートフォリオを構築
- ◆ 国内の低金利常態化なども想定し、低ウェイトの外貨建資産への配分を若干拡大

### 資産運用額(2017年3月末 ひまわり生命単体ベース)

#### 【一般勘定】

(兆円)



#### インカム利回り(一般勘定)の推移



#### 格付別構成比※

社内格付	構成比
BBB格以上	99.9%
BB格以下	0.1%

#### デュレーション(年)

	2016年 3月末	2017年 3月末
資産	14	13
負債	23	21

(参考)特別勘定の残高(2017年3月末): 219億円  
主に国内株式・債券で運用

※円金利資産、外貨建資産の合計

### 将来予想に関する記述について

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

#### 【お問い合わせ先】



SOMPOホールディングス株式会社

経営企画部 IRチーム

電話番号 : 03-3349-3913

Fax : 03-3349-6545

E-Mail : [ir@sompo-hd.com](mailto:ir@sompo-hd.com)

Web : <http://www.sompo-hd.com/>